

いのち
生命のにぎわい調査団

いのち
生命のにぎわい通信

第 31 号：発行 平成 26 年（2014 年）8 月

発行：千葉県環境生活部自然保護課
千葉県生物多様性センター

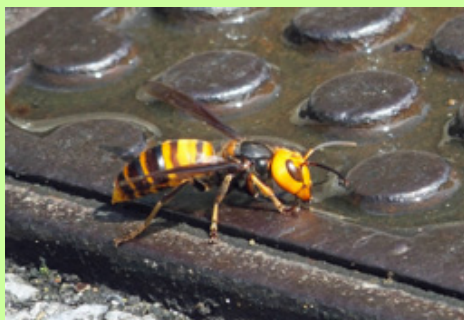
〒260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2
(千葉県立中央博物館内)
TEL 043-265-3601 FAX 043-265-3615
URL <http://www.bdcchiba.jp/monitor/>
E-mail monitor@bdcchiba.jp

季節の変わり目、ハチにご注意ください！

暑さの続く 8 月。しかし、季節は徐々に移り変わっていきます。夏の生きものの中に秋の生きものの姿が混じり始めます。昆虫たちは残り少ない夏の間に子孫を残そうと必死です。むやみに捕えたりせず、見守りましょう。そして、秋が近づくにつれて多くなるのが、スズメバチ類の報告です。

スズメバチも巣を守るため、必死に巣の周りを警戒します。大きな羽音が近づいてきたらジッと立ち止まって我慢してください。手で払ったり走ったりすると、動きに反応して襲ってることがあります。

スズメバチの威嚇行動として「**大アゴをカチカチ鳴らす**」「**相手を見つめながらホバリングを行う**」「**相手の頭上や周囲を旋回する**」ことが知られています。人通りの少ない小道などでは、木の根元や不法投棄されたドラム缶などに営巢していることもあります。そのような場所を避けることもスズメバチ対策となります。（a0000 は撮影した団員番号です。）



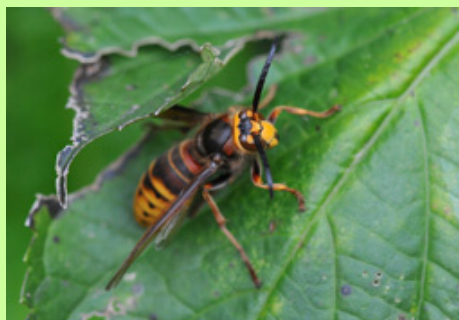
オオスズメバチ (a0826)

スズメバチ中最大で体長約 38 ミリ。腹部の縞模様は規則的で黄色が濃くオレンジ色っぽく見える。木の根元など地中に営巣するため、気づかずそばを歩き襲われることがある。羽音やアゴを鳴らす威嚇の音も大きいので、音が聞こえたらゆっくり遠ざかりましょう。



キイロスズメバチ (a0285)

体長約 28 ミリと小型。全身黄色い毛に覆われている。都市に最も適応したスズメバチで、民家の軒先や木の幹など開放的な場所だけでなく、屋根裏や床下などにも営巣する。大きな巣は直径 1m 近くになる。攻撃性が非常に強いので、近づかないように注意しましょう。



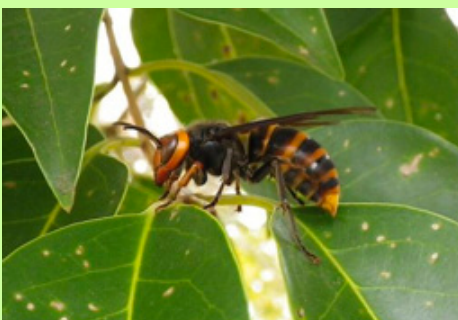
モンスズメバチ (a0261)

体長約 28 ミリと小型だが、体つきはがっしりしている。肩に小豆色の斑があり腹部の模様がいびつ。夜間も活動するためカブトムシ採集やホタル観賞などで遭遇することもある。屋根裏など閉鎖的な場所に大きな巣を作り、攻撃性が強い。威嚇行動に注意しましょう。



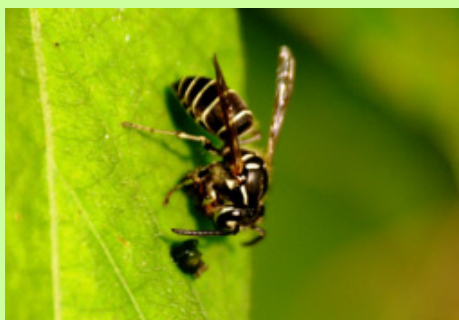
ヒメスズメバチ (a0261)

オオスズメバチに次いで大型。腹部先端が黒いので見分けられる。木のうろや屋根裏などの閉鎖空間に小規模な巣を作る。アシナガバチの幼虫を襲い、巣に持ち帰りエサとする。巣の近くでは威嚇してくるが、比較的おとなしい。慌てずにそっと距離をとります。



コガタスズメバチ (a0512)

体長約 28 ミリと小型。軒先や植込みの枝にバレーボール位の巣を作る。性格は温厚で、直接ハチや巣に刺激を与えない限りは安全。巣のあることに気づかず作業をすると刺激してしまうこともある。刺激すると数日間は一時的に攻撃的になるので近づかないでください。



クロスズメバチ (a0285)

ミツバチくらいの大きさ。姿も黒いミツバチに見える。地中に巣を作るので、特に斜面林などで入口を踏んでしまう事故が多い。大きめのハエが飛び回る様な羽音に注意しましょう。林道などから外れないようにしていれば巣を踏むことはありません。

最新の生物多様性に関する情報、各種講習会の情報は、当センターと調査団のホームページをご覧ください
「調査団」<http://www.bdcchiba.jp/monitor/index.html>と「生物多様性センター」<http://www.bdcchiba.jp/>

5月31日（土）午前10：30、快晴のいはら市民の森の入口の広場に56人が集合しました。駐車場では遥か上空を帆翔するサシバが見られました。また、キタテハ、テングチョウ、モンシロチョウなどのチョウもいました。市民の森に入るとカジカガエルの美しい声があちこちから聴こえ、アズマイバラの可憐な花が出迎えてくれました。

トビやホトトギスが上空を横切中、オオルリ、センダイムシクイの声を聴きながら森や水中の生きもの探し。石の上にちょこんと乗っているカジカガエルをフィールドスコープで観察し、顔立ちをしっかりと見ることもできました。参加いただいた皆様それぞれの大活躍のおかげで、とてもたくさんの生きものを間近で観察できました。

昼食をはさんで谷の奥へと移動し、今度はモリアオガエルとシュレーゲルアオガエルをじっくり観察。虹彩の色を見比べることもできました。研修会の最後には、元気な人たちは展望台へ山登り。それ以外の人たちは花見の丘に登って植物観察。

5月とは思えない暑さの一日でしたが、大勢のご参加ありがとうございました。

【観察できた生きもの】（抜粋）

鳥類：トビ、サシバ、センダイムシクイ（声）、オオルリ（声）、サンコウチョウ（声）、キセキレイ、ホトトギス（声）、ヤマガラ、メジロ（声）、ウグイス（声）、カワラヒワ

爬虫類：ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、ヤマカガシ

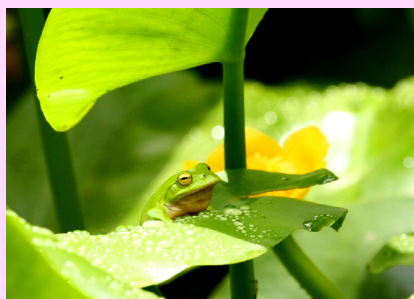
両生類：カジカガエル、ツチガエル、モリアオガエル、シュレーゲルアオガエル、アカハライモリ

魚類：オイカワ、ホトケドジョウ、ウグイ、メダカ、ヒメダカ

甲殻類：ヌカエビ、スジエビ、サワガニ、アメリカザリガニ

昆虫類：サラサヤンマ、クロスジギンヤンマ（ヤゴ）、キイロサナエ（ヤゴ）、コオニヤンマ（ヤゴ）、ニホンカワトンボ（ヤゴ）、モノサシトンボ、オニヤンマ（ヤゴ）、テングチョウ、イチモンジチョウ、ヒメウラナミジャノメ、ルリタテハ、アカタテハ、フクラスズメ、オオアメンボ、ヒメゲンゴロウ、モンキマメゲンゴロウ、オオアオゾウムシ、ヒメクロオトシブミ

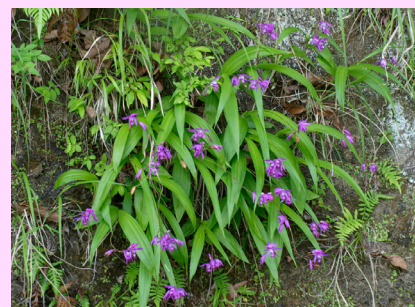
植物：アズマイバラ、エゴノキ、クリンソウ、シラン、コウホネ、サワオグルマ、ハナイカダ、ウワミズザクラ、クロモ



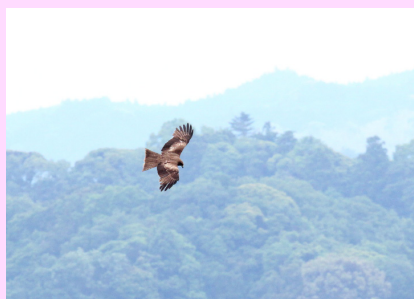
コウホネとシュレーゲルアオガエル



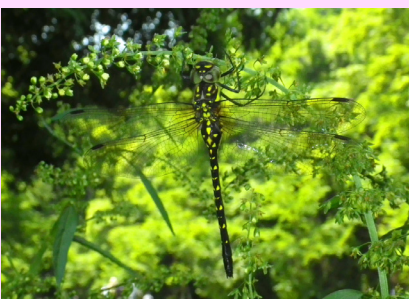
アカハライモリ



シランの群落



房総丘陵を背景に舞うトビ



サラサヤンマ



木陰で採集、獲れたかな？

＜これからの季節に観察できる生きもの＞

○調査対象種：リンドウ、モズ（高鳴き）、セッカ（今年は非常に数が少なく、県北西部ではほとんど見られていません）

○調査対象種以外（種の同定が難しいため、できるだけ写真の添付をお願いします）

* 渡りのカッコウ類、シギ、チドリ類 * 各種昆虫、両生類、爬虫類 など

* 希少生物（生息・生育数が減少している生物）や外来生物（特定外来生物・要注意外来生物）の報告も受けつけています。